

中学校部活動における陸上競技指導の手引き

1章

運動部活動の意義や効果

JAAF
Japan Association of
Athletics Federations

公益財団法人 日本陸上競技連盟

1 運動部活動の現状と問題点

わが国における中学校および高等学校の運動部活動は、世界に誇れるスポーツ文化です。

部活動は、学校教育の一環として教育課程との関連を図ることが謳われており（文部科学省, 2008; 2009）、その教育効果には強い期待が寄せられてきました（表1）。また、多くのスポーツ競技にとっては、競技の普及や競技力の向上を果たす重要な場としての役割を担ってきました。

表1 学習指導要領解説における部活動に関する記述（文部科学省, 2008; 2009）

部活動の意義と留意点等（総則第1章第4の2）
生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一貫として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。

一方で、運動部活動は多くの問題点を抱えています。運動部部員の減少、指導の加熱化、指導現場での体罰、運動部顧問教員の荷重なる負担などの問題が生じており、その改善に対して国民的関心が寄せられています。その改善にあたって、まずは指導者自身が表2にあげた運動部活動の現場に発生しやすい問題点（尾縣, 2000）の有無について、評価点検してみる必要があります。

表2 運動部活動における問題点（尾縣, 2000）

- ◆ 勝利至上主義の横行
- ◆ 発育を無視した過度のトレーニング
- ◆ ゆとりのない活動
- ◆ 閉鎖的社会的形成
- ◆ 指導者主体の活動

2 運動部活動が目指すべき方向

「人間力なくして、競技力の向上なし」これは、2014年ソチ・オリンピック日本選手団のスローガンでしたが、リオデジャネイロ・オリンピックを経て東京オリンピックにも引き継がれました。トップアスリートであっても、人間力を高めることがスポーツ活動の基礎にあることを意味するものです。学校の運動部活動では、チャンピオンスポーツ以上に人間力を高めることに、より大きな比重を置くべきだといえます。

学びの場である運動部活動は、生徒が自身を高めることができる場であることが大切です。そこで、運動部活動の場が単に競技力や体力の向上を目指す場にとどまらず、スポーツ好きの生徒が気軽に参加し、同学年や異学年の仲間、教師などとの交流を通して、好ましい人間関係を築いていくことが望まれます。また、有能感、自己肯定感、責任感、連帯感などを育んだり、社会的活動スキルを身につけたりする場にしていきたいものです。

3 指導者の目指すべき姿

スポーツの指導者は、スポーツ医・科学やマネジメントなどの知識を深め、そして根拠に裏付けられた実践経験を積み上げていくことが必要です。しかし、それらはスポーツ指導の哲学および理念、人間力という礎の上に積み上げられていくべきものです。すなわち、哲学や理念、人間力は、すべての種別の指導者に共通して求められるもので、その上に積み上げる専門的知識や経験などは指導者の種別によって、少しずつ異なってくるといえます。

ここで、「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」が示した種類別の指導者が目指す指導者像（文部科学省, 2013）を見てみましょう（表3）。これによりますと、運動部

活動の指導者には、教育活動の一環であることを認識した上で、生徒のスポーツキャリア全体を視野に入れた指導が求められているといえます。指導者のあり方を模索する際には、**表4**の2015年にコーチング推進コンソーシアムが発

表した「新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて ～グッドコーチに向けた『7つの提言』」（文部科学省, 2015）が参考になるでしょう。

表3 種別毎の指導者に求められるもの
(文部科学省, 2013を一部修正)

■ **すべての指導者**

社会におけるスポーツそのものの価値や健全性を高めることを忘れずに行動する。人格、主体的な判断や行動、社会の規範を遵守する。

■ **地域スポーツ少年団の指導者**

スポーツの楽しみを伝え、発達段階に応じて特定のスポーツ種目に偏らない様々な動きを教えたり、ケガをしにくいトレーニング方法を工夫する。

■ **運動部活動の指導者**

学校教育の一環であることを認識した上で、しっかりとした管理運営体制を構築し、生徒の様々なキャリアや志向などを念頭に教育課程との関係を工夫したり、目先の競技成績にとらわれず、生徒の長期的なスポーツキャリア全体を視野に入れたコーチングをする。

■ **総合型地域スポーツクラブの指導者**

年齢、性別、障害の有無や志向が様々な参加者を対象にコーチングを行えるよう、指導者資格の取得や研修会やセミナーへの参加を通じて資質能力の維持向上を図ったり、他のクラブチームの指導者と共同して学習を進めるネットワークを作っていく。

■ **ナショナルチームの指導者**

競技者や自身のグローバルな活動を視野に入れ、その社会的影響力から多様な立場にある指導者のロールモデルとなるよう努める。スポーツに関する最新の知見を収集し、国際社会で通用する人間性や言動、コーチングスキルなどを磨いていく。

表4 グッドコーチに向けた「7つの提言」
(文部科学省, 2015)

グッドコーチに向けた「7つの提言」

—新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて—

- 1 暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。
- 2 自らの「人間力」を高めましょう。
- 3 常に学び続けましょう。
- 4 プレーヤーのことを最優先に考えましょう。
- 5 自立したプレーヤーを育てましょう。
- 6 社会に開かれたコーチングに努めましょう。
- 7 コーチの社会的信頼を高めましょう。

【文献】

- ・文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説総則編。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_001.pdf, (参照日2018年12月1日)
- ・文部科学省 (2009) 高等学校保健体育指導要領解説総則。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1282000_01.pdf, (参照日2018年12月1日)
- ・文部科学省 (2013) スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議 (タスクフォース) 報告書。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/017/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/06/12/1337250_01.pdf, (参照日2018年12月1日)

- ・文部科学省 (2015) 新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて～グッドコーチに向けた「7つの提言」～。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/03/attach/1355875.htm, (参照日2018年12月1日)

- ・尾縣 貢 (2000) 学校における体育・スポーツに関する指導の改善・充実—運動部活動を中心にして—, 中等教育資料, 12 (5) : 20-25,

